

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	福井大学	整理番号	1-5-013
応募テーマ	大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域と協働する実践的教員養成プロジェクト		
申請単位	学部単位		
申請担当者	松木 健一		
<p>(取組の概要)</p> <p>いま、教員養成系学部の在り方が問われている。大学が地域と共生して地域貢献しつつ、教師の力量形成を促す取組を開発し、公開していくことは国立大学の使命である。教育地域科学部では、不登校問題や学校5日制に対応して10年前よりライフパートナー事業、9年前より探求ネットワークを地域と協働して立ち上げた。ライフパートナーは、学生が不登校児の家庭や相談室等に出かけ、共に話し遊び学習の援助者になる活動である。この活動は授業によってサポートされ、教育委員会や現職教員が参加したケース検討会を行なっている。市町村教育委員会の提携の下で、各自治体からの諸経費等のサポートを得て、現在130名の学生が220名の不登校児と1年間活動を共にしている。一方、探究ネットワークは、子どもの主体的な学習活動を学生が援助する。隔週土曜日に300名の子どもが大学に集まり、120名の学生と1年間にわたって活動を続ける。学生は、授業の中で活動を企画し準備を行い、その成果は、学生と教員による発表の場を設け、他大学を招いた公開討論を毎年行っている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、福井大学教育地域科学部の教育方針である教員養成における実践的力量の形成を高めるために、すでに10年にわたって組織的に実施されているものであり、大きな成果を上げているものとして高く評価します。</p> <p>特に「ライフパートナー事業」と「子供たちの探求のコミュニティーを支える探究ネットワーク」の2つのプロジェクトは、現在の家庭・学校、地域社会が抱える問題に、大学が主体的に取組むことで地域貢献しつつ、教師の力量形成を促すという両面を追究する仕組みとなっています。</p> <p>福井大学の取組は、他の教員養成系の大学・学部にも応用・展開できる先進的な事例として、優れた特色ある教育活動と認められるものと思います。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	佐賀大学	整理番号	1-5-035
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	市民参画「佐賀環境フォーラム」プロジェクト		
申請単位	大学全体		
申請担当者	宮 島 徹		
<p>(取組の概要)</p> <p>今日、健全な社会の形成のために、社会の各主体が正しい環境観を共有することが求められている。大学においては科学的判断基準を学習・討議する場を早急に構築しなくてはならないが、これに市民と学生が共通参加することにより、その教育効果は著しく高められる。佐賀市と佐賀大学は連携して「佐賀環境フォーラム」を平成13年度より毎年開催している。</p> <p>内容としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 外部講師を交えたオムニバス形式の講義</li> <li>2) 体験的学習効果をねらった自然生態系観察などの現地見学会</li> <li>3) 個別の問題に関する市民と学生によるグループ研究（ワークショップ）</li> </ol> <p>である。</p> <p>市民と学生の双方向コミュニケーションおよび学生の自立性を誘導した結果、学生の総合的判断力や自己発信能力などが飛躍的に向上した。また、市民の環境に対する意識も高められ、この機会に環境 NPO が結成された。「佐賀環境フォーラム」を実施することによって、環境教育としての生涯教育と教養教育をハイブリッド化する意義が明らかとなった。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、佐賀大学の教育目的・教育方針である「教育先導大学」と「社会に開かれ、社会に貢献する大学」を実現するため、平成13年から実施されたものです。平成14年学長を機構長とする「地域貢献推進室」を設立するなど、「民学連携」に大学として組織的に取り組んでいる姿勢や大学と地方自治体との連携で実施されている「佐賀環境フォーラム」は評価されます。「教養教育及び生涯教育としての環境教育」に優れた特色があり、他の大学の参考になる事例と認められます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	高崎経済大学	整理番号	1-5-009
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	学部理念に基づいた地域・社会との連携		
申請単位	学部単位		
申請担当者	大 宮 登		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、地方分権時代の人材育成をめざして、平成 8 年度に我が国で初めて設立した地域政策学部を基盤に、学部理念の「個性豊かな地域づくりを担うリーダーの養成」を目標とした地域・社会との連携の取組である。当学部は、大学と地域・社会との連携をより一層深めるために、学生、教員、附属機関が有機的な連携を取り、自治体や N P O、市民等と協力し、数多くの意欲的で斬新な取組を総合的な視点に立って実践している。地域・社会との連携は、インターンシップや公開講座などの事業を単発的に行うだけでは、継続的效果は期待できない。当学部では、教授会、大学院、地域政策研究センター、産業研究所、情報センター、日本地域政策学会等が有機的に連携し、①体験実習及び地域連携講座、②学生の社会活動参加、③地域課題解決・生涯学習支援、④教員の社会貢献活動、という 4 つの柱を軸に、総合的に地域連携に取り組み、確実に自治体や市民等の地域・社会から高い評価と信頼を受け、多くの委託事業やボランティア事業を実施するに至っている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、学生のボランティア活動を促し、地域社会を担う地域リーダーの養成を目指す学部の創設理念を生かそうとするものです。</p> <p>地域貢献（連携）事業に止まらず、大学教育にその成果が反映され、日常の教育活動に組み込まれている点が評価されました。地域連携事業と大学教育との連携ないし融合という点で、この取組は特に優れており、他の大学の参考になる事例であると思います。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	北海道医療大学	整理番号	1-5-032
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	地域・大学連携による医療系基本教育 ～ボランティア活動による教育を中心に～		
申請単位	大学全体		
申請担当者	阿部 和厚		
<p>(取組の概要)</p> <p>北海道医療大学は、教育理念に「社会の福祉への貢献」を掲げ、医療や福祉に従事する専門職業人養成を目標としている。このため従来から地域貢献活動やボランティア活動が盛んで、実績をあげてきたが、これらの活動を一層充実して教育理念を実現していくために、平成14年度に大学と地域住民が協同して「ボランティアセンター」を大学のある町内に設置し、学生の地域におけるボランティア活動支援の拠点と体制を整備した。これにより学生のボランティア活動は、町内在宅障害児一時預かりサービスの創設、小中学生の福祉教育との連携、大学の施設利用で知的障害者の生涯教育に資する「オープンカレッジ」の定期的開催など、飛躍的に広がった。これらの学生による多様な社会的活動は、学生の学習意欲を向上し、地域貢献活動をさらに拡大した。このように学生のボランティア活動を、大学全体として授業の中に位置づけて、地域と大学が連携して教育支援する体制を作り出し、地域・大学連携教育を実践している点に大きな特色がある。また、社会との共生・協働を通してこれからの医療・福祉に求められる価値観の育成を図る点も特色である。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、北海道医療大学の教育目的・教育方針である「知育」「徳育」「体育」の理念のもと「社会福祉への貢献」の精神で地域社会と共生協働をめざして時代と社会の要請に応え、地域貢献をしつつ学生の自主性、創造性を育てる実習を通じ専門職業人としての学びをする方法は大変評価出来るものです。</p> <p>学生主導型発案を地域社会の指導者のもとに具現化し実行する方法、そして得られた体験教育を通じて更なる基本的な理論などで、よりその知的増幅を試みている活動そのものは、決して派手な先見性など有するものではありませんが、身近かな問題を取り上げ大学で学び着々と人間形成に寄与している点、いずれも当大学の理念が実践されているものです。</p> <p>この取組は、特にボランティア活動をすべての戦略として用いたことは優れた特色があり、他の大学の参考になる事例です。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大 学 名	武蔵工業大学	整理番号	1-5-003
応 募 テ ー マ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取 組 名 称	国内外の地域に密着した実践的環境教育		
申 請 単 位	学部単位		
申 請 担 当 者	増 井 忠 幸		
<p>(取組の概要)</p> <p>環境教育には、「環境についての教育」、「環境のための教育」、「環境の中での教育」があるが、現場体験と実践的行動が重要との考えに基づき、「環境のための実践的教育」と「環境の中での地域密着型教育」を重視した教育を行っている。ISO14001 環境マネジメントシステムの認証を大学として初めて取得し、学生をその構成員としている点も特色である。エコロジカルキャンパスと ISO14001 を軸に、豪州や中国の環境関係組織・大学・NGO・行政等と連携して企画開発した環境保全フィールド研修や、横浜市・都筑区・NGO 等との連携による環境保全・教育活動など、国内外の地域・社会と密着した実践的環境教育を展開し成果を挙げている。学生も環境活動の企画・実施・評価に参画し、学びを深化させている。これらの活動は、他大学・高校・地域住民へと波及すると共に、地球環境大賞（優秀環境大学賞）ほか多くの賞を受賞している。今後、より体制を強化し、環境教育のモデルとなる地域に開かれた「環境教育の拠点」の確立を目指している。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、武蔵工業大学環境情報学部の教育方針を具現化する教育研究活動として、学部長の強力なリーダーシップの下、全教職員の取組によって大きな成果をあげているものと高く評価します。この取組は、環境についての教育、環境のための教育、環境の中での教育という 3つの側面から体系的かつ一貫性のある環境教育を実践しています。実績について表彰も多いなど今後の活躍も期待されます。よってこの取組は他の大学にも参考となる優れた特色あるものと認められます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大 学 名	明治学院大学	整理番号	1-5-010
応 募 テ ー マ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取 組 名 称	大学教育における社会参画体験の取込と実践 ～ボランティアセンターによる教育支援の試み～		
申 請 単 位	大学全体		
申 請 担 当 者	鵜 殿 博 喜		
<p>(取組の概要)</p> <p>明治学院大学では、教育における「社会参画体験」の重要性に対する深い認識が、学部学科の枠組みを越えて共有されている。本取組は、自らの体験に基づき、自主的に思索し行動する力を学生自身から引き出すための、主としてボランティア活動を通じた教育上の工夫の集成である。多くの学科では、既に直接間接に正規の授業にボランティア活動を取り入れた科目を用意している。一方、ボランティアセンターは、独自にボランティア活動の紹介、課外活動の支援、学生スタッフの育成、ボランティア公開講座の開催等を展開し、そのノウハウを活用して、学科の教育への協力も行っている。この取組の結果、学生のボランティア活動に対する理解と意欲は著しく向上し、目標とする「学生自らが様々な形で社会参画の企画・運営を実践すること」が達成されている。個々の活動実績は多岐にわたるが、学生ボランティアへのファンド提供事業は、当大学と企業との連携による様々な企画の一例であり、当大学の教育が社会的に評価された証となる成果と考えられる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、建学の精神を生かし、大学が積極的に学生ボランティア活動を推進しようとするものです。特にボランティアセンターは、大学としてセンターを全学的な組織体制でサポートしている点で大いに評価されます。ボランティアを通じた地域社会へのコミットメントやボランティア活動の専門学部教育への生かし方など今後の課題は残るものの、企業とも連携した都市型ボランティア形成を目指す努力は、他の大学の参考になる優れた取組であると思います。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	京都造形芸術大学	整理番号	1-5-055
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	多地域・多世代の交流による教育プログラム		
申請単位	学部単位		
申請担当者	上村 博		
(取組の概要)			
<p>本取組は、生涯学習の新しい学びの場を、様々な地域での教員と学生による共同の制作・研究によって作りだそうとするものである。近年、生涯学習では資格や学歴以上に自己の潜在的な創造性を発揮する場が求められている。京都造形芸術大学の通信教育は、その社会的要請に応じて、全国的なフィールドワークを展開し、地域固有の環境を活かした実践的な授業を行ってきた。これは単なる地域研究にとどまらず、地域間、世代間の交流そのものを貴重な学習機会として育てていくものである。様々な背景を持つ社会人学生、地域住民、通学課程の若い学生、教職員が、互いの異質性を認識しつつ、共通課題に取り組む態勢をとることは、学生間の自発的な学習活動や文化活動を促し、さらには大学改革の原動力ともなっている。本取組は、通学課程もあわせた大学全体の授業を根本から見直し、地域社会に開いていくものであり、また地域での新しい文化共同体の形成に寄与するものともなろう。</p>			
(採択理由)			
<p>この取組は、京都造形芸術大学通信教育部の教育目的・教育方針である各地域に根ざしたスクーリング授業を通して芸術運動の新しい展開を図ろうとする特色ある取組です。全専任教員が通信教育課程のプログラムに参加するなど、全学的な取組であることが認められ、この5年間でもスクーリング授業の開講数が飛躍的に増加しており、取組の実績から見ても、学生の自己表現の実現、地域文化の活性化等の教育目標を達成するなど大きな成果を上げています。生涯学習の場としての大学教育のあり方において新しい優れた事例であり、通信教育課程のみならず広く他の大学の参考となる優れた取組であると認めることができます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	岐阜市立女子短期大学	整理番号	2-5-008
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	デザインを通じた地域との交流による教育		
申請単位	学科単位		
申請担当者	宮本 教雄		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は地域の中にある大学という概念から、大学と地域という二重の教育の場を設定し、相互の場の人材が互いの場で交流し、活動する事によって、「学生を育てる」、「地域を育てる」事を目的にしている。また地域での教育活動をより効果的に行うために、教育の場、教育者、対象者、目的、内容の5つの要素を選択し、組み合わせることで、組織的、総合的な教育として整理を行った。</p> <p>主な教育活動は、次のとおりである。①地域をテーマとする課題研究・卒業研究の実施と、地域における発表会の公開。②地域に関する特別講義の実施と公開。③岐阜市の職員を講師に迎え、現場の見学を取り入れた実践的な授業の実施。④官学との共同による地域企画の開催。⑤岐阜市生涯学習施設内ファッションライブラリーでの学生の作品展示や、教員の公開講座・ワークショップの開催。⑥リカレント教育を目的とした公開講座の実施。⑥地元アパレル企業とのインターンシップの実施。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科の学科目標である「地域社会における職業人の育成」、とりわけアパレル産業のための人材育成を実現するために計画された地域産業人材育成型の優れた特色ある取組であります。平成12年から岐阜市立女子短期大学の学科再編によって、生活デザイン学科として、カリキュラム編制、学生の実習やインターンシップ、公開講座やイベント、学科の専門的研究など、トータルに大学と産業界、そして行政とのコラボレイトをはかる試みがなされており、地域産業人材養成型の特色ある試みとして、他の短期大学の参考になる事例であります。</p> <p>しかし、こうした総合的取組がはじまってまだ日が浅く、十分な実績が積み重ねられているとはいえないが、岐阜市立女子短期大学生生活デザイン学科がトータルに地域とコラボレイトしていこうとする点では、今後の短期大学のひとつのあり方を示すものと思われれます。</p>			



平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	桜の聖母短期大学	整理番号	2-5-001
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	生涯学習センター設置と公開講座の継続実施 —創立者の精神に立ち、地域における生涯学習拠点として歩む—		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	上野 正治		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は、およそ 20 年に及ぶ実績の上に、創立者の「共にある心」という理念に立ち、生涯学習センターの機能を整備し、公開講座の充実と継続を図ろうとするものである。</p> <p>桜の聖母短期大学は、生涯学習を大学教育の不可分の一環と捉え、昭和 60 年から全学的にそれを進めてきた。「全ての人に開かれ」、人びとの「真に豊かに生きる」という願いに応じて用意された 100 を超す講座には、この 11 年間、年ごとに 1,300 人余りの、本学学生を含む受講生が集うている。今や当生涯学習センターは人びとの知的、靈的渇きに応える社会的施設として、この地に欠くことのできないものとなっている。</p> <p>小さな高等教育機関が、全ての学生に生涯にわたる学習の基礎を学ばせ、引き続き地域の人びとに充実した学習の場を提供することは、私たちの大きな社会的使命である。</p> <p>本学は、大学が地域に支えられ地域に奉仕するという自覚をもって弛みなく歩み続けたい。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、桜の聖母短期大学が、教育方針である創立者の精神に立って、「地域社会に開かれた地域形成に役立つ大学創り」を実現するため、大学理事会の議決により設置された「桜の聖母生涯学習センター」において、平成 4 年以来継続的に行われてきた取組であります。</p> <p>これは、関係者の多大な努力により大きな成果を上げており、生涯学習推進型の、優れた特色をもつ取組であります。</p> <p>広い地域から多数の受講者を継続的に集めて、生涯学習事業が展開されており、地域・社会からの評価も高く、託児施設を設けるなどの受講環境の整備もはかられつつあり、学生やボランティアの参加など、優れた工夫もみられ、短期大学がコミュニティ・カレッジとしての役割をはたす一つのよいモデルであります。</p> <p>大学と地域の「知」の相互交流をはかり経済的にも自立的に成り立つよう、今後の一層の工夫と努力が望まれます。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	千葉経済大学短期大学部	整理番号	2-5-002
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	もう一つの学校「こども造形教室」 ～地域とともにこどもたちの創造性を育む大学教育～		
申請単位	学科単位		
申請担当者	佐久間 勝彦		
<p>(取組の概要)</p> <p>平成4年以来11年間にわたり、地域の子どもたちの造形的な創造性を育み、学年や学校の枠を超えた触れ合いの中で豊かな人間性を培うことを目的として「こども造形教室」を開催し続けている。開催回数は既に100回を超え、毎回100～200名の子どもたちが参加している。</p> <p>本取組は小学校、幼稚園の教員養成を担っている初等教育科全体の協力体制のもとに行われている。毎回50～60名の学生が参加して、担当教授の指導のもとにこどもたちの主体性を引き出しながら造形活動の指導や支援を行っており、教育実習では体験することのできない貴重な特色ある実践教育の場であり、学生の多角的な子ども理解を深め、教職への意欲を高めていく絶好の機会ともなっている。</p> <p>本取組は地域の学校とも連携を図り、地域に深く根を広げ、住民の理解と支持を得ており、新聞やテレビで「新しい大学と地域との共生の取り組み」として紹介され、また千葉青年会議所からも表彰された。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、千葉経済大学短期大学部初等教育科の教育目標である「こどもの成長を見守り、その可能性をひらき育てる保育士・幼稚園教師・小学校教師の育成」を実現するため、学長のリーダーシップのもと初等教育学科全教員の協力によって行われ、平成4年以来継続的に行われてきた実績のある取組であります。土曜日を開く「こども造形教室」という形でのこの取組は、地域の児童育成支援型取組の中で、継続性においても、特色性においても他の短期大学が参考にすることのできる優れた取組であります。</p> <p>初等教育科の「基礎造形」科目担当者を中心にして開かれているこの「こども造形教室」は、学校週5日制に対応して、休日土曜日を利用しての地域の子どもたちの造形教室体験と、「教育実習」や「基礎造形」といった専門教科での学生たちの体験がうまく組み合わされ、大学と地域との「知」の交流がうまく行われている一つの具体的なモデルであります。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	松本大学松商短期大学部	整理番号	2-5-026
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	多チャンネルを通して培う地域社会との連携 ー地域社会で存在感のある大学を目指してー		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	住吉 広行		
<p>(取組の概要)</p> <p>今回応募した取組の概要は次の通りである。</p> <p>(a)大学での教育に地域社会が潜在的に持っている「教育力」を、アウトキャンパス・スタディやサポーター教育という形式で積極的に取り入れ、地域社会全体を学びのフィールドと捉えつつ、帰納法的な教育方式として活用しようとしている。</p> <p>(b)大学が持っている研究・教育などソフト機能を、</p> <p>①生涯学習の一環として公開講座・講演会・シンポジウムなどの形で、</p> <p>②教育機関や諸団体の学習活動に、出前講義、注文授業、講師派遣等に応じる形で、</p> <p>③ボランティア活動への積極的な参加などで、</p> <p>地域社会に還元しようとしている。</p> <p>(c)大学が持っている諸施設などのハード機能を地域社会にできるだけ開放し、地域社会の活力を引き出しながら、共同してその発展を図ろうとしている。</p> <p>このように、様々なチャンネルを通して大学をあげて地域社会との連携を積極的に図る取組である。これにより、学生の成長、地域住民とのネットワークの広がり等成果は着実に上がり、「地域社会において存在感のある大学づくり」に向かっている。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、松本大学松商短期大学部の「地域を良く知り、地域の未来を担い得る、有意の人材を送り出す」という教育目標を実現するために、地域社会と大学との「知」と「教育」の相互交流を総合的にはかる取組であり、地域活性型取組の一つの優れた特色をもつ試みであります。大学と地域の関係を双方が果たすべき役割を理論的に整理し、①大学→地域、②地域→大学、③地域⇄大学のすべてのパターンの実践的取組を実現してきた実績を高く評価します。公開講座をサポーター教育のための人材発見の機会とするなど、担当者の高い意欲も評価できます。</p> <p>平成14年にはエクステンション・センターが開設され、大学と地域社会を結ぶ総合的な窓口の役割を果たさせていることも評価でき、こうした試みは優れた特色として、他の短期大学の参考になります。</p>			

平成 15 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	佐賀短期大学	整理番号	2-5-010
応募テーマ	主として大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	高齢者の生きがいきづくりと学生の人間教育		
申請単位	短期大学全体		
申請担当者	福元 裕 二		
<p>(取組の概要)</p> <p>佐賀短期大学は健康福祉・生涯学習センターにおいて地域の高齢者に4年間の体系学修が受けられるエルダーカレッジを開設した。ここでの学修は、4年間で短期大学の卒業要件を満たすに十分な時間数と短期大学の水準を維持した授業内容となっている。エルダーカレッジで学ぶ高齢者は豊かな人生経験を有し年齢を感じさせない強い学修意欲を持っており、生きがいきづくりに成功している。</p> <p>センター10年間の活動の中で、高齢者と短期大学で学ぶ学生との間で様々な交流が行われるようになり、異世代交流が高齢者と若い学生の双方にプラスの教育効果を生み出すことが明らかになった。これを更に発展させ、高齢者の知識と経験を若い学生の人間教育に生かすためエルダーカレッジ生による短大学生への教育支援を試み一定の成果を挙げている。高齢者の生きがいきづくりと若者の人間教育を共に可能とするセンターと短大とのコラボレーションは、今後、新たな短期大学教育の方向性を示すものと期待できる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、「人間の健康との福祉の分野で貢献できる人材の育成」を目指す佐賀短期大学が、「地域と共生」するために計画されたもので、平成6年、健康福祉・生涯学習センターの創設が大学全体の意思決定機関で決定されて開設され、そこを中心にした生涯学習推進型取組であります。特に公開講座プログラムを手がかりに、高齢者を対象にした「エルダー・カレッジ」の取組は、そのシステムや運営をふくめて地域と大学の連携という観点での短期大学の今後の方向を示す優れた特色ある試みであり、高く評価することができます。実績も積み重ねられており、またこの「エルダー・カレッジ」への地域の住民の参加も多く、このプログラムが計画においても、運営においても優れていることをあらわしています。</p> <p>今後も実績を積み重ねて、若い学生と高齢者が短期大学でともに学ぶことの積極的な成果を生み出し、ひろく他大学の参考になる取組として本取組を充実させることを期待します。</p>			